チャペル週報

No.18

2014.10.13 ～ 10.17

秋季宗教運動特集号

主なる神は、すべての顔から涙をぬぐい
ご自分の民の恥を地上から拭い去ってくださる。
これは主が語られたことである。

イザヤ書25章8節

中央講堂ロビー　ステンドグラス

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05　　場所 各学部チャペル

10月13日(月) **神** 中　道　基　夫（神学部教授）
経 秋季大学キリスト教週間を迎えて① 舟　木　　譲（宗教主事）
人 音楽チャペル　ゴスペルクワイア P.O.V.
聖和 聖書物語　洗礼者ヨハネとイエスの洗礼・12人のとくべつなでし
理 前　川　　裕（宗教主事）

10月14日(火) **神** 浦　上　　充（日本基督教団城之橋教会牧師）
文 Andreas Rusterholz（宗教主事）
社 ギターとピアノで歌うチャペル　打　樋　啓　史（宗教主事）、学生有志
法 ボランティア活動の勧め　杉　浦　　健（ヒューマンサービスセンター コーディネーター）
経 秋季大学キリスト教週間を迎えて② 舟　木　　譲（宗教主事）
商 則　定　隆　男（商学部教授）
国 学生活動報告　フラダンスサークル モナティ
聖和 田　淵　　結（教育学部宗教主事）
総 小　池　洋　次（総合政策学部教授）

10月15日(水) **神** ＜YMCA活動報告＞ 赤　松　真　希（神学部２年）
社 「孤独」について⑥ 村　田　泰　子（社会学部准教授）
法 English Chapel　Christian Morimoto Hermansen（宣教師）
経 English Music Chapel　Timothy Dale Boyle（宣教師）
商 石　淵　順　也（商学部教授）
人 文　　禎　顕（単立・北鈴蘭台教会牧師）
国 舟　木　　譲（経済学教授・宗教主事）
聖和 施設実習を終えて　比　嘉　　愛（保2）越　智　会　菜（保2）
理 前　川　　裕（宗教主事）
総 村　瀬　義　史（宗教主事）

10月16日(木) **大学合同チャペル「総主題：創立125周年を祝って」10:20～11:20**
西宮上ケ原キャンパス　会場：中央講堂
「すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を～Mastery for Serviceの実践」
今　井　悠　介（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事）
西宮聖和キャンパス　会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「共に仕えるために」野　田　和　人（神戸栄光教会牧師）
神戸三田キャンパス　会場：Ⅵ号館101号教室
「人は何のために生きるか ―関西学院の建学の精神を考える― 」
鎌　田　康　男（総合政策学部教授）

10月17日(金) **大学合同チャペル「総主題：創立125周年を祝って」10:20～11:20**
西宮上ケ原キャンパス　会場：中央講堂
「共に仕えるために」野　田　和　人（神戸栄光教会牧師）
西宮聖和キャンパス　会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「すべての子どもに機会を すべての子どもに夢を～Mastery for Serviceの実践」
今　井　悠　介（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事）
神戸三田キャンパス　会場：Ⅵ号館101号教室
「沈黙の声」加　藤　　知（理工学部長）

◇ランバス早天祈祷会　毎金曜日　8:20～8:40　ランバス記念礼拝堂（上ケ原）
10月16日(木) 宗教運動のために　　森田　雅也（宗教活動委員会奉仕部長）
10月17日(金) 図書館のために　　奥野　卓司（大学図書館長）

Mastery for Serviceの実践

今　井　悠　介

関西学院創立125周年、お祝い申し上げます。大学を卒業してから６年。今、私は公益法人の代表者として、東北の子どもたちの支援を仕事としています。それは、本学のスクールモットーである“Mastery for Service”を実践することでもあります。

今年の７月、厚生労働省は日本の子どもの貧困率が16.3％と、過去最悪を記録したことを発表しました。「日本の子どもの６人に１人が貧困ー。」先進国日本において、信じがたいことかもしれませんが、紛れもない事実です。災害や家庭の事情によって、貧困家庭で育つ子どもたちは、十分な学びの機会を得ることができません。そのような子どもたちは、低学力・低学歴に陥り、将来就業において困難を強いられます。そして、貧困は世代を超えて連鎖していきます。

東日本大震災後、「子どもの貧困」の問題が深刻化する東北において、私は関西学院を卒業した仲間とともに公益法人を設立し、貧困家庭の子どもたちの学びの機会を保障するための取り組みをはじめました。この公益法人の母体になったのは、20年前の阪神・淡路大震災を原点に、関西学院の学生が立ち上げたＮＰＯ法人です。阪神・淡路大震災当時、学生たちが、被災した子どもたちの学習支援を行いました。その後も活動は後輩たちに受け継がれ、今でも関西学院の学生らが中心となって、阪神地域の子どもたちの教育支援活動を継続しています。私は2005年に本学に入学し、この活動に出会いました。

学生時代の活動や今の仕事において、壁にぶち当たり、自分の非力さを認識するたびに、「子どもたちを支えるためには、自分自身を高めなければならない」という思いを強くしました。それは“Mastery for Service”という言葉の意味を深く考える時間でもありました。道半ばの私は、まだこの言葉の意味を理解しきれていません。でも、実践を通じて気づいたことがあります。それは、「人の幸せは、誰かに必要とされることによって、得られるものだ」ということです。そして、それは“Mastery for Service”を実践した先にこそ、存在するのだと信じています。実践はこれからも続きます。

（公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事）

共に仕えるために

野　田　和　人

1889年に関西学院を設立されたW.R.ランバス師は、1856年から30年間に亘って中国伝道に携わっておられた父であるJ.W.ランバス師とともに、1877年以来上海を中心に中国での医療伝道に尽力しておられました。1885年、米国南メソジスト監督教会はジャパンミッションの開始を決議。翌年の1886年、父の老ランバス師とともにW.R.ランバス師らが中国から日本へと派遣され、日本宣教部および南美以神戸教会（現神戸栄光教会）開設とともに、W.R.ランバス師はそれぞれの総理・初代牧師に任命され、その後のグローバル・サーヴァント・リーダーとしての彼の歩みが始まりました。

「共に仕えるために」というスローガンは日本基督教団世界宣教委員会が教団派遣の宣教師・関係教会を覚えて毎年発行している冊子の名前ですが、副題として－今日の世界宣教－とあります。W.R.ランバス師の働きは、この「共に仕える」ことの源流にあるものとして、今日の私たちのローカル＆グローバル・ミッションに大きな影響を与えるものであると確信しています。私自身ブラジル生活が長かったのと（1981～1996）、2002年に献身してから再びブラジルと向き合うことになったことも併せて、この冊子をいつも手許に置いて宣教師の皆さんのご苦労を覚えつつ、仕えること、そして共に仕えることのできる恵みに心から感謝しています。

「仕える」ということについては「仕え、ささげるために」と題するメッセージが神戸栄光教会のHPに掲載されていますので、そちらをご覧ください。私が思い出すのは、ブラジルから帰国して献身を決意するまでの寝たきりの祖母との再会です。彼女は筋金入りの信徒伝道者として本当によく歩いていました。しかし最後はベッドの上で「私はもう十分歩いたから、もう歩かなくていい」と言っていました。ああ、神さまがそうおっしゃっていると思ったものです。「あなたは十分尽くした、十分仕えた」と。

「いのちを蝕む力に対抗し、人々のいのちに仕え、その輝きをもたらせる業である『神の宣教』“missio Dei”に携わられた」W.R.ランバス師をはじめとする私たちの信仰の先達の方々の「仕える」歩みに導かれて、私たちも信仰を示しつつ、日々の課題と取り組んでいきたいと思います。

（神戸栄光教会牧師）

人は何のために生きるか

鎌　田　康　男

現代日本に生きる私たちは、豊かで便利で恵まれた生活を営んでいます。ですから日々の生活を秩序正しく送っていれば、不安なく人生を過ごせる、と考えます。今や大人の世界にまで浸透したゲーム文化は、ほかから与えられたルールをそのまま受け入れて、できるだけうまく ― 自分に有利にゲームをプレイすることを人生と考える現代人のメンタリティを反映しているかのようです。しかし、ゲーム的人生によって批判精神のない人が大量生産されることはないでしょうか。さらに、人間がもはや、心を通わせ理解しあう生きた人ではなく、ゲームスティックによって操作できる対象としか見えなくなる危険さえ感じられます。そのような生き方に対し、「このままでよいのだろうか」と自問する批判精神も必要です。自分に対する批判精神のないところに、良心も輝く理想も育たないでしょう。良心や理想など持とうとするなどばかげたことだ、と言い放つ人すら現れてくるかも知れません。

聖書には、神が天地を創造された、と記されています。また世界の終わりと最後の審判についても語られています。仏教を奉じる日本でも平安時代には末法思想が広がりました。現代人はそうした考えを、科学を知らない人々の迷信と片付けたがります。しかし、昔の人びとは、それらの教えによって、どんなに当たり前に見えるものでもくつがえることがある、終わりがあるということ ― 自分の慢心に対する自己批判精神を養っていたのです。それを、「いつか死ぬことを忘れるな」、あるいは、「諸行無常」と表現したのです。

私たちは、「今」、「ここ」にあることが当たり前であるかのように日々を生きています。しかしまだ生きていなかった、生まれる前の時があったのと同じように、当たり前の今の人生が終わる時 ― 死ぬ時がかならず来ます。人間にとっての「生命の尊厳」とは、今、ここを当たり前として無反省に生きることではなく、限られた人生の時間として、限られた出会いの空間としてどのように生きるのかを、目覚めた心で考えることができる、ということではないでしょうか。

その時私たちは、多くの人に支えられながら、今、ここに生かされていることの不思議さと、ありがたさとに気付きます。聖書の記者が、わたしたちは神の恵みによって生かされている、と述べるとき、そのような感謝の思いもこめられていたのだ、と思います。それは今、ここに生きていることの不思議に驚き、自分が生きることの意味と、なすべきことを考え、そのような生を積極的に生きることの充実感を私たちに伝えようとするメッセージなのです。

（総合政策学部教授）

沈黙の声

加　藤　　知

沈黙……

旧約聖書の預言者の伝統の最初に位置するエリヤが、イスラエルの信仰の原点であるホレブ山で出会ったのは沈黙（かすかな細い声と訳されていますが、原文は沈黙の声）でした。エリヤは行動する預言者でした。イスラエルの伝統にとって脅威であったバアル神崇拝に対して挑戦し、カルメル山上でたった一人、450人の敵に対して見事なパーフォーマンスで打ち勝ったのですが、悔い改めの時は来なかったのです。エリヤは失意のうちにホレブ山に逃避行しました。火や煙に覆われ雷鳴轟くこの山でモーセは神に出会いましたが、エリヤは大風や地震や火の中に神を見出すことができなかったのです（列王記上19章）。このとき、沈黙の声を聴きました。これは、伝統の力の神に対するNO!です。これはまた、生ける神の前に一人立つ預言者の伝統の始まりでもあります。

ここには、時代の変化の中で伝統を守ろうとする者の苦悩があります。関西学院も125年に亘って歴史を刻み、伝統を積み上げてきました。よき伝統を継承していくことは、今を生きる私たちの責務ですが、簡単なことではありません。詩人のT. S. Eliotが述べたように、伝統は「相続されるべきものではなく、欲するならば非常な努力をして獲得すべきもの」であり、それなりの覚悟をもって新たな生命を吹き込んでいかなくてはなりません。エリヤの物語では、沈黙が伝統に新たな生命を吹き込む契機となっています。

沈黙には多様な意味合いがありますが、ここでは「主観への窓」と捉えて考えてみたいと思います。沈黙を前にすると、喧噪の中では聞こえなかった自分の内面の声が聞こえてきます。科学を専門としていると客観性に拘って、自分自身のことをうまく語れなくなってしまうのですが、この内面の声は外にある問題を自分の内の問題として捉えることを求めてきます。伝統の継承は、組織としての客観的問題であると同時に個人の中に内面化、パーソナル化してはじめて、時代に即応した生き生きとしたものになるのではないでしょうか。激動する時代の中、沈黙の声を聴きつつ125年の伝統を噛みしめ、「私はどうするのか」と問い続けたい。

（理工学部長）

●STAND UP！ TAKE ACTION 2014 (Last campaign)

貧困をなくそう。
国連が目指すミレニアム開発目標を達成するため、世界市民は力を合わせ応援しよう。
関西学院でも立ち上がれ！

ミレニアム開発目標（MDGs:Millennium Development Goals）とは、2000 年 9 月のニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、1990 年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合し、一つの共通の枠組みとしてまとめられたものです。

国連のミレニアム開発目標

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 普遍的初等教育の達成
3. ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上
4. 幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. HIV/ エイズ、マラリアその他疾病の蔓延防止
7. 環境の持続可能性の確保
8. 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

Ruth M, Grubel 院長の決意宣言、Christian Hermansen 先生のメッセージに引き続き、中央芝生に集まった皆さんで「スタンド・アップ」のパフォーマンスをします。多くの方のご参加を願っています。

と　き：10 月 15 日（水）12：50～13：10
ところ：中央芝生（西宮上ケ原キャンパス）
主　催：関西学院宗教活動委員会

●ランバスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。秋学期の予定は以下のとおりです。
10 月 21 日（火）「バプテスマはひとつ」
11 月 18 日（火）
いずれもランバス記念礼拝堂（上ケ原）にて 10：35～11：05

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー 14 階の大阪梅田キャンパスでは、授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを実施しています。（17：50～18：20　1405 教室）

主題：「関西学院創立 125 周年を覚えて」
10/16（木）舟　木　　譲（大学宗教主事）
10/23（木）Jeffrey Mensendiek（宗教センター宗教主事）
10/30（木）山　本　俊　正（院長補佐）

●夕べの祈り at ランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひととき。秋学期は以下の 3 回行ないます。どなたでもご参加ください。
第 2 回　11 月 6 日（木）18：30～20：00
第 3 回　1 月 8 日（木）18：30～20：00
ところ：ランバス記念礼拝堂（上ケ原）
主　催：夕べの祈り準備会（学生有志）
協　力：関西学院宗教活動委員会

●2014年度大学主催秋季人権問題講演会の開催について

総合テーマ：Culture of Human Rights ― 人権文化を育む（2010年度～2014年度）

1．映画上映『SAYAMA　みえない手錠をはずすまで』

上映日時・場所：

11月10日(月) ①10：35～12：40
　会場：神戸三田キャンパス　Ⅱ号館102号教室

11月11日(火) ②11：10～13：10、③13：30～15：30
　会場：西宮上ケ原キャンパス　関西学院会館「風の間」

11月12日(水) ④10：35～12：40
　会場：西宮聖和キャンパス　6号館611教室

11月13日(木) ⑤10：35～12：40
　会場：西宮聖和キャンパス　メアリー・イザベラ・ランバスチャペル

11月13日(木) ⑥15：10～16：40
　会場：西宮聖和キャンパス　6号館631教室

（⑥は上記④⑤で2時間目に離席した人のため、上映15分経過後から放映する）

＊各回とも、さやま事件の説明時にはパソコンテイクを、映画放映中は字幕を投影します。

＜パネル展示＞

○「さやま事件」とは（パネル30枚）

11月4日(火)～14日(金)

・西宮上ケ原キャンパス　図書館エントランスホール

・聖和キャンパス　メアリー・イザベラ・ランバスチャペルの入り口　2か所

●リトリートat千刈 ～テゼ共同体のブラザーを迎えて～

フランスのテゼ共同体からブラザー･ギランを講師に迎えて、1泊2日のリトリート（修養会・黙想会）を開催します。一日数回のテゼの音楽を用いた共同の祈りを中心に、ブラザーのお話、グループでの話し合い、個々の黙想の時間などを通して、それぞれが命を深呼吸させる日々。関西学院が大切にしてきた建学のスピリットに、体験的にふれる機会です。ぜひご参加ください。

と　き：11月29日(土)～30日(日)

ところ：関西学院千刈キャンプ

主　催：関西学院宗教活動委員会

申込み・問合せ：宗教センター（吉岡記念館事務室）

●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するＣＤやＤＶＤを備えています。本学学生及び教職員（学生証または身分証明書必要）であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会（ＪＯＣＳ）切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力お願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。